

推理小説というものは推理をたのしむ小説で、芸術な  
どと無縁である方がむしろ上質品だ。これは高級娯楽の  
一つで、パズルを解くゲームであり、作者と読者の智慧  
くらべでもあって、ほかに余念のないものだ。

しかし、日本には、探偵小説はあったが、推理小説は  
殆どなかった。小栗虫太郎などはヴァン・ダインの一番  
悪い部分の模倣に専一であって、浜尾四郎や甲賀三郎の  
作品も、謎解きをゲームとして争う場合の推理やトリッ  
クの確実さが無い。終戦前の探偵文壇は怪奇趣味で、こ  
の傾向は今日も残り、推理小説はすくないのである。

「推理小説論」 坂口安吾